

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2022年1月1日 220号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

迎春

2022

令和4年

レダより望む、パラグアイ川と虹

Rainbow and the Paraguay, seen from Leda.



二〇二二年元旦

一般社団法人

南北米福地開発協会

代表理事 中田欣宏

明けましておめでとぅいふじます

二〇二二年寅年！

一人の命を懸けた覚悟と決意が新しい未来を拓く！

文鮮明・韓鶴子総裁ご夫妻によって一步を踏み出した、パンタナール・レダを中心とした福地建設の歩みは23年目に入りました。

昨年から二〇二七年に向けて、新たな七年間の挑戦が発効しております。22年間の先輩方の汗と涙の精誠は、見捨てられてきた地域社会の人々、特に子供たちに大きな夢と希望を与えてきました。それはこれから地域社会や国家の発展に大きな力となるでしょう。

昨年は地域社会との関わりに新たな試みがありました。そして新しい文化と産業を生み出し発展する、新しい時代がやってきました。老年・壮年・青年が互いの役割を果たしながら課題を克服し、共生・成長する新たな時代の出発です。

助け合い、協力しながら、世界の果てから誇りをもって、希望の光を輝かせていく時が来ました。実体的に福地建設の槌音を響かせる時代が始まります。

福地の新しい文化は「為に生きる」精神が息づき、全ての住民や地域社会の人々に生きる喜びと希望を、そして感謝と勇気を与えるでしょう。

創設者が願われた理想の実現を具体的に実践躬行し、形に表し、地域と国家と世界に夢と希望を、そして指針を与えることのできる時が近づいて来ました。

今年一年、皆様方のご健康とご多幸、そしてご活躍を祈念申し上げます。



アセロラの実が初めて豊作。長田君(左)と天野君。11月26日



レダ基地スナップ

パクーの人工孵化に向け親魚を選別するマグノ教授(右)と滝川君(中)。



岩澤所長より原理を21回受講したソーサさんに表彰状。



石井君(前列左3)とマグノ教授(その右)の歓迎会。12月1日



パクーの活け締め挑戦。11月20日



レダファミリー団欒のひと時。11月11日



パクーの母魚に排卵を促すための注射。



上山氏(中)を見送る養豚チーム。11月24日



到着した林順一氏の歓迎会。11月19日



川久保君がエビのゾエアを観察。



5人の中期ボランティアの歓送会と早めのクリスマス会。12月5日



トロパンパ村でパクーを販売。11月13日

持続可能な福地建設をめざして(7)

パンタナールの水に感謝しよう

和田賢一



安全な水とトイレ
を世界中に

今回のテーマは、「水」です。私たちは日常、何の心配もなく、ごく当然のように水を使っています。洗面、炊事、洗濯から風呂、掃除、植木の水やりまで、水を使わない日はありません。わが国の上水道普及率は98%に達しています。また、下水道処理人口普及率は約80%とされています。こうした水の恩恵は私たちの生活面のみならず、社会全体にも及んでいます。私たちは何と恵まれた環境の中にいるのでしょうか。

しかし、世界の現状はどうでしょうか。国際NGOウォーターエンドが発表した「2020年世界の水の現状」によると、現在、安全な水を確保できない人は20億人いると指摘し、2050年には世界の人口の約半分の50億人が水不足に苦しむと予測しています。また国連児童基金のデータでは水不足によって、毎年150万人の子供が感染症によって死亡していると憂えています。

これは、上水道の現状ですが、下水道に関して、42億人が安全なトイレを使用していないといわれ、野外排泄者は6億7千万人いるということです。こうした中で、SDGs（持続可能な開発目標）のゴール6で「水」について、「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」として、安全な水とトイレを世界中に張り巡らすことを掲げているのです。

しかしながら、水問題は単なる生活水という面だけではない複雑な問題を抱えているのです。そもそも地球上には14億立方キロメートルの水が保有されていますが、97%が海水、残る3%が淡水です。淡水は湖沼、河川、地下水、氷河、氷山として保有されています。さらにそれを生活用水・農業用水・工業用水として利用しているのは1%というわけですから、単純に「安全な水を確保する」と言っても、それを

実現するには膨大なインフラの整備が必要であると容易に結論が得られます。かつてローマ帝国は水の確保のために石造りの水道施設を建設しました。その遺構が現在まで地中海沿岸の国々に残っています。わが国でも江戸期に多摩川の羽村から江戸の四谷まで建設された玉川上水を例に出すまでもありません。SDGsの第6項目の「水」の箇所もインフラ問題の重要性を指摘しています。

まず、山地、森林、河川、湖沼などの保護・回復を訴えています。その上で、各国が共同して水資源



タンク：水を飲む。重要な管理の述べています。その水道・下水道の安全を確保して、平等に人々



汲み上げる。右に併設の浄水場の安全のため、汚染の減少、有害物質の流入の

阻止、未処理の排水の減少に力を注ぐことは言うまでもありません。

これらの項目への取り組みとともに、SDGsは、集水に向けた挑戦、海水の淡水化、水の効率的利用、水のリサイクルといった技術開発の促進も視野に入れた、総合的な水問題の取り組みを訴えています。ここまでくると、水問題は一大国家プロジェクトです。経済的に豊かな先進国は、水問題に積極的に関わっていくことができるでしょうが、開発途上国に

とっては手に余ることでしょう。となると、国際的な協力体制を築かない限り、解決の糸口すら見いだすことができないでしょう。

さらに問題を複雑化している例として、私たちが利用しているペットボトルを使った飲料水を考えてみましょう。水はもちろん、お茶やコーヒーその他の飲料の多くがペットボトルに入っています。このペットボトルがうまく再生されれば、新しい繊維などの商品となるのですが、廃棄されたものが海に流れ着き、環境を汚染しているのです。詳細なデータがありませんが、わが国からプラスチックごみが年間何万トンと海に流れ込んでいっているのです。

SDGsの観点から、一つの問題は他の問題と綿密にリンクしており、解決の道筋は単純なものではないことがわかります。

これまで、SDGsの本質はどのようなものかを考えてきましたが、各問題は私の問題であり、私が問題解決のためにできることから始めることが重要だということは変わりません。ペットボトルの飲料を敬遠して、マイボトルのお茶を常用するのもよし、プラスチックごみの減少を図るために、より一層のごみの分別に努力するもよし。

私たちが開拓している南米・パラグアイのレダは世界有数の大湿地、パンタナールの南端に位置しています。しかもレダは大河パラグアイ川の沿岸にあり、私たちはその恩恵を受けています。またパンタナールの北にはアマゾン川が流れており、私たちは水との正しい関わり方を考えざるを得ません。

私たちは現在、パラグアイ川から水を摂取し濾過、殺菌して使用しています。近隣の住民の大多数は、依然として直接川の水を口にしていると聞いています。衛生や健康にいかなる悪影響があっても、現状では事態の改善にはほど遠いでしょう。私たちが、近隣の人々との友好な関係を続けていくためにも、いつか支援ができることを考えていきたいものです。そして当然ですが、摂取する水と同時に、廃棄する水についても考えなくてはならず、私たちの今後の課題の一つです。レダプロジェクトを「水」という切り口から再考することも重要でしょう。（つづく）

第22回パンタナール1日研修会を開催

去る11月20日(土)、東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟402室において、当法人とNPO法人地球の緑を守る会の共催で「第22回パンタナール1日研修会(ワシントンセミナー)」を開催しました。新型コロナウイルス感染症予防のため、検温、手指消毒、マスク着用、換気、ソーシャルディスタンスの厳守(定員の半数削減)などの対策を徹底しました。

明るい小春日和の朝、セミナーは一年ぶりの開催とあって、集い来る参加者、講師、発表者、スタッフ各人の表情や姿に喜びが表れていました。司会進行役は和田賢一氏。スタートは提唱者文総裁の想いを伝える柴沼講師。以後、参加者たちは最後まですべてのプログラムと熱心に向き合っていました。

●プログラム…●「提唱者の思想とレダ開拓の歩み」柴沼邦彦理事、●「パンタナールにおける自然林再生と森林農業」高津啓洋NPO地球の緑を守る会代表理事、●「青年活動の概要」島田賢二青年局長、●映像①第21回青年奉仕隊、②滝川哲盤君パクー養殖・販売、●「レダユースの活動」角田愛里香代表、●「レダにおける今後の展望」後藤誠一副代表理事、●感想発表…河原英一地球の緑を守る会船橋支部長
今回のセミナーの大きな特徴として、会場でもその背後でも青年のエネルギーが躍動していました。大滝順治セミナー実行委員長は、「若返りと勢いを感じる素晴らしいセミナー」と報告しました。



恒例の記念撮影

当日会場に参加できなかった方々は、右のQRコードから映像をご視聴になれます。



宮脇昭追悼植樹祭

主催…いのちの森づくり2020プラス1未来へ、および出雲大社相模分祠、植樹会場…秦野市平沢向山1926・2036付近
10月30日(土)・31日(日)に開催された、宮脇昭追悼植樹祭の二日目に、当会とNPO地球の緑を守る会から4名が参加しました。

このうち小巻里美さんは主催者のスタッフとして活躍しました。二日間で約200名が参加し、タブノキ、シラカシ、スダジイを含む高木、亜高木、低木、約1000本を宮脇方式で植えました。うち私たちの会が植えたのは約40本です。



10月31日

二つの植樹祭に参加

資料…今なぜ木を植えるのか(2019年4月) 宮脇昭『いのちの森づくり』序文より)「緑の植物からなる森は、生態系の中の唯一の生産者です。人間を含めた動物は消費者であり、緑の植物に栄養源を頼っています。どんなに科学・技術を発展させ、富を手に入れても、私たち人間は他の動物と同じように、緑が凝縮している森に依存して生きています。」

新東名秦野丹沢植樹祭2021 主催…NPO法人国際ふるさと森づくり協会(RenFo)、いのちの森づくり2020プラス1未来へ、および出雲大社相模分祠、植樹会場…新東名秦野丹沢スマートICアクセス道路斜面、開催日…12月11日(土)

当会とNPO地球の緑を守る会から計7名が参加し、ひとり10本程度植えました。勾配30度近い斜面に、郷土樹種のポット苗約3400本を宮脇方式で混植・密植し、稲わらを敷き、縄かけをしました。主催者より「苗木は我慢しあって育ち、千年も二千年も生きる『本物の森』になる」とのことでした。



12月11日

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット(印刷済み)、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。

パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>